

【「んぎつね授業記録②」】

「ある秋のことでした。」

T じゃ、「ある秋のことでした。」

ある秋の日、二三日の間ずーと雨が降り続いていました。

その間、ごんはどうしていたんやった？

和寿 穴の中でしゃがんでいた。 外にでられんで。

T 穴の中にしゃがんでいた。……ちよつとここをうかべてください。

2. 3日ずーと穴の中にしゃがんでいた。この時のごんは、どんなにしてたかね。ああ、のんきだなあ、て気楽にしてたかね。そうじゃなかったかね。ここは、どう読んできますか？ めぐみちゃんから聞いていこう。どんな気分だったかね。

めぐみ 外にも出られず、空を見たり、地面を見たりしてた

T 勇太は？

勇太 早くいたずらがしたいな

T ほう、……真由佳ちゃん。こうやって、出さると、どれに近いかな、て考えてくれ。

この間のごんは、どんな気分やつたと思う？

真由佳 ……何もできひんで寝転んでる。

T ほう、それは気持ちよかったか？……そこはわからんか。 浩二は？

浩二 外に出て散歩がしたい。

T ほう、こんなふうに出ているけど、今の聞いてて、どう？ 寿子ちゃん

寿子 ごろごろしながら、早くいたずらがしたい。

T 何もできひん。早くいたずらがしたいなあ。はい、ひでちゃん

英和 ……

安裕 ごんは、2. 3日雨降って、ひまでひまでしゃあないでな、ごろごろして

なんかかないかなあつて考えたり、早うやんでほしいけど、なかなかやまへん。

T ほう、なんかいいことないかなあつて考えたり、

安裕 穴の中であばれとる。

T しゃがんでてもむずむずしとったやろう。

康治 やっちゃんとかと同じでな、おもしろくないから、ずーと村になにかないかなとか、いたずらしたいなあとか

T 早う、村へ行っていたずらしたいなあとか思とった。

今、こういう意見が多いね。いたずらがしたい、とほればっかり思ってた。

そう思う人(多数挙手)

そうは思わない、という人はない？……先生はそう思わないんだけど。

宏 だいたい半分くらい。……外に出たいと思ってる。

T 「いたずらがしたい」じゃなくて、宏は、ちよつと違うこと言ってるよ。

宏 ああ、外に出たい気持ちなん。

T いたずらじゃなくて、外に出たい。ちよつと違うの、わかる？

宏 君のに何か感じる、て人ない？

智美 穴の中ってせまいさかいに、のびのびできひん。

T 浩二君が、散歩がしたい、て言ってたね。

ちよっと違うの、わかる？ いたずらがしたい、というのがと散歩がしたいというのと。

安裕 ほやけどよ、出るときは、ぶらぶら出よっただけやで。

外に出たいんやったらうれしがって出るはずやで。

恵理子 外で走り回りたい

T ほれ、また違うのが出たぞ。外で走り回りたい。

めぐみ さびしい

T ほう、さびしい。……もうちよっと言え。なんでさびしいの？

めぐみ 暗いところでずっと一人でいても、話相手もないし、

T みんな、めぐみちゃんの中から何かもうんやで、もういっぺん言って。

めぐみ うすぐらい穴の中で、一人ぼっちでいても、光もあたらへんし、雨やから

T 雨が降って外だって薄ぐらいのに、まして穴の中は暗いわな。光もささない穴の中に

一人でずっとおる。(和寿 さみしい)それが、一日だけじゃないんやな。(和寿 三日

も) 三日。一日しんぼうしてもまた次の日も雨。また次の日も。もうさみしいてさみし

いてたまらん。

康治 あまり食べ物もないしな、村でいたずらしたら食べ物も手に入るし。

T じゃ、この問題でみんなから出ているのを整理してみましよう。このときのごんの気持

ちは、こつち(いたずら)が強かったかね、(外に出たい)の気持ちだったかね。

T 手を上げて。

早くいたずらがしたい、

外に出たい……

安裕 証拠あるで。

T はい、読んで証拠、さがしてごらん。このときのごんはどつちか

C 見つけた。

T Ⅱ 子供たちの間を回る。Ⅱ

T じゃ、賢児から

賢児 ごんは外へも

T ここやて。「外へも」

賢児のいいたいことわかる人

太志 いつもいつも雨でな外へ出られへん。

安裕 ごんは悪さんかじゃなくて、外へ出たいだけなん。

T もうちよっと賢児が見つけたところで。……「外へ出られなくて」と「外へも出られ

なくて。「も」があるのとないのでは、同じかい？

C ちがう

T どうちがう 「外へも」

C ……

寿子 いたずらしたい気持ちもあるけど、外に出て早く背を伸ばしたい。

T 背を伸ばしたい。

義昌 こんなせまつくるしい場所ですよがんばるで

T じっとしてて、背を伸ばしたい。外へ出たらできるんやな。外へ一歩出たらできる、それさえもできないで、じっとしてんなら。だからいたずらどころじゃないんだ。これが一つ。それから、ちかちゃんが見つけてる。

千佳 雨が上がると、ごんはほっとして

T 雨が上がるとほっとして

C ほっとした

C いたずらができるからほっとした

俊之 外へ出られたからほっとしたんや。

T 千佳ちゃんが見つけたここ、どう読みますか？「雨があがるとほっとして」

ちかちゃん、ここで何がいたかったの？この「ほっ」とって。

俊之 やつと外へ出られたからほっとする

麻衣子 何か、雨が降ってたときは、こんな狭苦しい穴の中にいるのがいらいらしていたのが、外へ出たら気持ちいいというか、

T いらいらしていた気持ちがいいとした。そういう「ほっ」なんやて。

和寿、どうや

和寿 やつと穴から出られて、いたずらができると思って

T ああ、そう読むか。この「ほっ」は「いたずらできるぞ」の「ほっ」か。

C ちがう

安裕 ごんはお日様がすきなんちがう

T 勇太はどう

勇太 めぐみちゃんといっしょでな、背をのばしたい。

C はい、

T よし、安裕、宏、といこう

安裕 「穴からはい出しました」のところだよ、いたずらしてはい出せんやったらよ、そのそと出るかしらんけど、外へ出たいでさつとでよったんちがう？

宏 「空はからつと晴れていました」「もずの声がキンキンひびいていました。」のところでな、もずの声が聞こえるぐらいやからな、いたずらしたかつたらすぐいくのにな、聞きながら歩いている

T あ、今宏がすごいこといったんやけど、分かる人

一人、二人、お、こういうとき、もらえる人はえらい！何がいたかつたんでしょ。迪彦君、言うたつて。

迪彦 いたずらするんやつたら……

T 宏は、すごいこといったんやで、これも関係あるんやて（空はからつと もずの声聞きんきん 板書）も、「ほっ」と関係があるんやて。

太志 わかった

T だれか！ひろつちちゃんの言いたいこと言える人

峻介 もしな、いたずらしたいんやつたらな、もう聞かんといつてな。うんとな、外に出られてうれしかったな、のんびり眺めてるん。

T 義昌

義昌 えっと、空がからっと晴れててまぶしいくらいやし、もずの声が初めて聞くみたいによく聞こえる。

Tへえ、またすごいこと言う。このもずの声は、初めて聞くみたいやっ。……太志

太志 ふつうの日やったら何とも思わんかったけどな、

T ほれほれ、ふつうの日やったら何とも思わんかったけど、
ちよっと、しゃべってもらう前に。

ごんは、今まで晴れた空で見たことなかった？（ううん）もずの声聞いたことなかった？あるよね。でも、普通の日やったら気にならんけどって、続き言っ。

太志 雨が三日も降り続いて、久しぶりやでな、何か観察してるん。

T だれか、この日は特別に感じられたって。太志が言いたいこともうちよつと

亜未ちゃん

亜未 ……三日ぶりに外に出て、なつかしい

T ほれ、今なんていわった？

C なつかしい

安裕 久しぶりに出てきたで。

宏 二三日も、何も聞かんとずっとしゃがんでたから、そこらへんの自然は、久しぶりなん。

T なんか、「春の歌」の蛙の気分みたいなのかもしれんね。「ほつまぶしいな」の「ほっ」といっしょかもしれんね。

ほど、どうかな、宏君が言ったように、もしいたずらしようという気持ちでいっばいだったら、

安裕 無視して行かる。

Tもし、いたずらしようという気だったら、こんなの目に入ってこなかったでしょうね。

この後 ノートに自分の読みを整理させる。

Tごんは、川下の方へと歩いていきました。

このときのごんの歩き方は、いそいそと歩いてるかね。

Cうれしそう

和寿 うれしそうにゆっくり

T 和寿はなんていった？ うれしそうにゆっくり 祐介は？

祐介 えつとな、気持ちがいい。

T 気持ちがいいなあ、うれしくってゆっくり。それでいい？

義昌 ちがう、ゆっくりとうれしく楽しく、気分をよくしながら歩いている

康治 久しぶりやからな、そこらへんの景色も変わってるかなって見ている。見渡してて
いる

宏 さっきとちやんがいわったみたいにな、何か、しずくが光ってました、とかな、
水がどつとましていました、とかな、いろいろゆっくり眺めながら

T、ほど、ここは、いたずらしようとかじゃなく、ゆっくりうれしい気分景色を眺めて

るんやね。